

半期報告書

(第75期中)

自 2025年 1 月 1 日
至 2025年 6 月 30 日

金下建設株式会社

(E00133)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	3

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(5) 大株主の状況	5
(6) 議決権の状況	6

2 役員の状況

6

第4 経理の状況

7

1 中間連結財務諸表

(1) 中間連結貸借対照表	8
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	10
中間連結損益計算書	10
中間連結包括利益計算書	11
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	12

2 その他

17

第二部 提出会社の保証会社等の情報

17

[期中レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2025年8月12日
【中間会計期間】	第75期中（自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）
【会社名】	金下建設株式会社
【英訳名】	The Kaneshita Construction Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金下 昌司
【本店の所在の場所】	京都府宮津市字須津471番地の1
【電話番号】	(0772)46-3151(代表)
【事務連絡者氏名】	管理部長 佐藤 伸弥
【最寄りの連絡場所】	京都府宮津市字須津471番地の1
【電話番号】	(0772)46-3151(代表)
【事務連絡者氏名】	管理部長 佐藤 伸弥
【縦覧に供する場所】	金下建設株式会社大阪支店 (大阪市北区西天満4丁目3番25号) 金下建設株式会社兵庫支店 (兵庫県豊岡市三坂町5番28号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第74期 中間連結会計期間	第75期 中間連結会計期間	第74期
会計期間	自2024年1月1日 至2024年6月30日	自2025年1月1日 至2025年6月30日	自2024年1月1日 至2024年12月31日
売上高 (百万円)	5,663	3,847	9,743
経常利益 (百万円)	424	154	479
親会社株主に帰属する中間（当期）純利益 (百万円)	269	106	321
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	865	399	777
純資産額 (百万円)	18,908	18,965	18,819
総資産額 (百万円)	22,207	22,487	21,844
1株当たり中間（当期）純利益 (円)	124.82	50.30	148.84
潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	83.5	82.7	84.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,020	2,129	650
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△344	289	△252
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△107	△252	△111
現金及び現金同等物の中間期末 （期末）残高 (百万円)	10,113	10,996	8,831

- （注） 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米国の通商政策の動向や物価の上昇が継続的に懸念される等、景気の先行きは、依然として不透明な状況となりました。

建設業界におきましては、公共投資は底堅く推移しましたが、民間設備投資に力強さは無く、また、建設資材価格の高止まりや、建設技術者・労働者不足が慢性化しており、引き続き厳しい状況となりました。

このような状況の中、当社グループの売上高は、工事進捗の遅れ等により、38億4千7百万円（前年同期比32.1%減）となりました。

利益面につきましては、売上高が減少したこと等により、営業利益は4千2百万円（前年同期比86.8%減）、経常利益は1億5千4百万円（前年同期比63.6%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は1億6百万円（前年同期比60.5%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。（セグメントごとの経営成績については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。）

（建設事業）

受注高は、30億8千1百万円（前年同期比45.2%減）となりました。売上高は、36億5千2百万円（前年同期比33.4%減）となり、セグメント利益は、売上高が減少したこと等により3億1千8百万円（前年同期比44.5%減）となりました。

（製造・販売事業等）

主にアスファルト合材の販売、飲食事業（回転寿司店の運営）等で、売上高は、3億6千4百万円（前年同期比5.8%増）となり、セグメント損失は4百万円（前年同期はセグメント損失8百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末より6億4千3百万円増加し224億8千7百万円となりました。増加した主な要因は、工事代金の受入等により現金預金が増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末より4億9千6百万円増加し35億2千1百万円となりました。増加した主な要因は、大型工事の未成工事受入金の増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より1億4千7百万円増加し189億6千5百万円となりました。増加した主な要因は、自己株式の取得がありましたが、保有株式の株価上昇により、その他有価証券評価差額金が増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は82.7%（前連結会計年度末は84.5%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、21億2千9百万円の増加（前年同期は20億2千万円の増加）となりました。増加した主な要因は、工事代金の回収により売上債権が減少したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、2億8千9百万円の増加（前年同期は3億4千4百万円の減少）となりました。増加した主な要因は、投資有価証券の取得がありましたが、有価証券の償還による収入があったこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億5千2百万円の減少（前年同期は1億7百万円の減少）となりました。減少した主な要因は、自己株式の取得と配当金の支払い等によるものであります。

以上の結果、当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ21億6千5百万円増加し、109億9千6百万円となりました。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

前事業年度の有価証券報告書に記載した、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

②【発行済株式】

種類	中間会計期間末現在 発行数（株） （2025年6月30日）	提出日現在発行数（株） （2025年8月12日）	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	3,806,660	3,806,660	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	3,806,660	3,806,660	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 （株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金増 減額 （百万円）	資本準備金残 高（百万円）
2025年1月1日～ 2025年6月30日	—	3,806,660	—	1,000	—	2,121

(5) 【大株主の状況】

2025年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式 を除く。)の 総数に対 する所有株 式数の割合 (%)
上原成商事(株)	京都市中京区車屋町通御池上ル塗師屋町344	198	9.44
金下 昌司	京都府宮津市	148	7.04
(株)日本カストディ銀行（三井住友信託銀行再信託分・ライト工業株式会社退職給付信託口）	東京都中央区晴海 1 丁目8-12	116	5.52
金下建設従業員持株会	京都府宮津市字須津471-1	100	4.76
(株)みずほ銀行	東京都千代田区大手町 1 丁目5-5	99	4.75
(株)京都銀行	京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700	99	4.75
金下 欣司	京都府宮津市	93	4.42
京都北都信用金庫	京都府宮津市字鶴賀2054-1	57	2.74
サンキ工業(株)	京都府宮津市字須津413-44	52	2.49
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内 1 丁目4-5	50	2.38
計	—	1,016	48.28

(注) (株)日本カストディ銀行（三井住友信託銀行再信託分・ライト工業株式会社退職給付信託口）の所有株式116千株は、退職給付信託業務に係るものであります。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2025年6月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 1,701,400	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 2,084,300	20,843	—
単元未満株式	普通株式 20,960	—	—
発行済株式総数	3,806,660	—	—
総株主の議決権	—	20,843	—

② 【自己株式等】

2025年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
金下建設株式会社	京都府宮津市字須 津471-1	1,701,400	—	1,701,400	44.70
計	—	1,701,400	—	1,701,400	44.70

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2025年1月1日から2025年6月30日まで）に係る中間連結財務諸表について、監査法人グラヴィタスによる期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	8,831	10,996
受取手形・完成工事未収入金等	2,506	1,039
有価証券	302	400
未成工事支出金等	※ 348	※ 272
その他	93	31
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	12,078	12,738
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,218	1,218
その他（純額）	593	590
有形固定資産合計	1,811	1,808
無形固定資産	6	6
投資その他の資産		
投資有価証券	7,542	7,525
その他	630	632
貸倒引当金	△222	△222
投資その他の資産合計	7,949	7,935
固定資産合計	9,766	9,749
資産合計	21,844	22,487

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 6 月30日)
負債の部		
流動負債		
工事未払金	693	602
リース債務	2	2
未払法人税等	80	60
未成工事受入金	337	650
完成工事補償引当金	24	7
その他	302	481
流動負債合計	1,438	1,801
固定負債		
リース債務	6	5
繰延税金負債	1,075	1,197
役員退職慰労引当金	491	503
その他	16	16
固定負債合計	1,588	1,721
負債合計	3,025	3,521
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	2,147	2,147
利益剰余金	17,526	17,525
自己株式	△4,900	△5,044
株主資本合計	15,773	15,628
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,688	2,965
その他の包括利益累計額合計	2,688	2,965
非支配株主持分	357	373
純資産合計	18,819	18,965
負債純資産合計	21,844	22,487

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	5,663	3,847
売上原価	4,873	3,335
売上総利益	790	512
販売費及び一般管理費	※ 469	※ 469
営業利益	321	42
営業外収益		
受取利息	11	16
受取配当金	81	82
持分法による投資利益	—	3
不動産賃貸料	20	19
その他	4	3
営業外収益合計	115	123
営業外費用		
持分法による投資損失	3	—
不動産賃貸原価	8	8
その他	2	3
営業外費用合計	13	11
経常利益	424	154
特別利益		
固定資産売却益	5	9
特別利益合計	5	9
特別損失		
その他	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前中間純利益	429	163
法人税等	146	41
中間純利益	283	122
非支配株主に帰属する中間純利益	14	16
親会社株主に帰属する中間純利益	269	106

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
中間純利益	283	122
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	582	276
その他の包括利益合計	582	276
中間包括利益	865	399
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	851	383
非支配株主に係る中間包括利益	14	16

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	429	163
減価償却費	37	36
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	16	△17
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△29	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	△1
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	15	12
受取利息及び受取配当金	△92	△99
持分法による投資損益 (△は益)	3	△3
有形固定資産除売却損益 (△は益)	△5	△9
売上債権の増減額 (△は増加)	2,705	1,468
未成工事支出金等の増減額 (△は増加)	57	76
仕入債務の増減額 (△は減少)	△649	△91
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	82	313
未払消費税等の増減額 (△は減少)	11	△24
その他	△570	263
小計	2,008	2,088
利息及び配当金の受取額	93	103
法人税等の支払額	△81	△62
法人税等の還付額	0	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,020	2,129
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	—	700
有形固定資産の取得による支出	△42	△34
有形固定資産の売却による収入	5	9
無形固定資産の取得による支出	—	△1
投資有価証券の取得による支出	△301	△387
関係会社出資金の払戻による収入	—	3
その他	△6	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△344	289
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△1	△1
自己株式の取得による支出	—	△144
自己株式の売却による収入	0	—
配当金の支払額	△107	△107
財務活動によるキャッシュ・フロー	△107	△252
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,569	2,165
現金及び現金同等物の期首残高	8,544	8,831
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 10,113	※ 10,996

【注記事項】

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」

(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)を当中間連結会計期間の期首から適用しております。これによる中間連結財務諸表への影響はありません。

(中間連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(中間連結貸借対照表関係)

※ 未成工事支出金等の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
未成工事支出金	303百万円	219百万円
材料貯蔵品	40	48
販売用不動産	4	4

(中間連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
役員報酬	77百万円	80百万円
従業員給料手当	193	194
役員退職慰労引当金繰入額	15	16
貸倒引当金繰入額	△2	△1

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
現金預金勘定	10,113百万円	10,996百万円
現金及び現金同等物	10,113	10,996

(株主資本等関係)

I 前中間連結会計期間（自2024年1月1日 至2024年6月30日）

配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年3月26日 定時株主総会	普通株式	108	50	2023年12月31日	2024年3月27日	利益剰余金

II 当中間連結会計期間（自2025年1月1日 至2025年6月30日）

1. 配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年3月26日 定時株主総会	普通株式	108	50	2024年12月31日	2025年3月27日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2025年2月12日開催の取締役会決議に基づき、2025年2月13日付で東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）により、自己株式50,200株を取得し自己株式が144百万円増加しております。

なお、当中間連結会計期間の自己株式は5,044百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	建設事業	製造・販売 事業等	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,484	179	5,663	—	5,663
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	165	165	△165	—
計	5,484	344	5,829	△165	5,663
セグメント利益又は損失 (△)	573	△8	565	△243	321

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△243百万円には、セグメント間取引消去等18百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△262百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	建設事業	製造・販売 事業等	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,652	194	3,847	—	3,847
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	170	170	△170	—
計	3,652	364	4,016	△170	3,847
セグメント利益又は損失 (△)	318	△4	314	△272	42

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△272百万円には、セグメント間取引消去等5百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△277百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間（自 2024年1月1日 至 2024年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	建設事業	製造・販売 事業等	
官民別内訳			
官公庁	2,601	4	2,605
民間	2,884	175	3,059
顧客との契約から生じる収益	5,484	179	5,663
外部顧客への売上高	5,484	179	5,663
収益認識の時期			
一時点で移転される財	1,111	179	1,290
一定期間にわたり移転される財	4,373	—	4,373
顧客との契約から生じる収益	5,484	179	5,663
外部顧客への売上高	5,484	179	5,663

当中間連結会計期間（自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	建設事業	製造・販売 事業等	
官民別内訳			
官公庁	2,364	5	2,369
民間	1,288	190	1,478
顧客との契約から生じる収益	3,652	194	3,847
外部顧客への売上高	3,652	194	3,847
収益認識の時期			
一時点で移転される財	1,339	194	1,533
一定期間にわたり移転される財	2,314	—	2,314
顧客との契約から生じる収益	3,652	194	3,847
外部顧客への売上高	3,652	194	3,847

(1 株当たり情報)

1 株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
1 株当たり中間純利益	124円82銭	50円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益 (百万円)	269	106
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 (百万円)	269	106
普通株式の期中平均株式数 (株)	2,155,734	2,113,574

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年 8 月 8 日

金下建設株式会社

取締役会 御中

監査法人グラヴィタス

京都府京都市

指定社員 公認会計士 圓岡 徳樹
業務執行社員

指定社員 公認会計士 飯田 一紀
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている金下建設株式会社の2025年1月1日から2025年12月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年1月1日から2025年6月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、金下建設株式会社及び連結子会社の2025年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは期中レビューの対象には含まれていません。